

第6学年1組 国語科学習指導案

指導者 ○○○○○○

1 日時・場所 2023年12月15日(金) 5校時 6の1教室

2 単元名 作品の世界をとらえ、自分の考えを書こう
 (教材名) 「やまなし」資料「イーハトーヴの夢」光村図書 6年

3 単元・教材について

【単元目標】

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力，人間性等
(1) ク ・ 比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。	(C (1) エ) ・ 「読むこと」において、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 (C (1) オ) ・ 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。	・ 表現や構成等に注目して作品世界を捉えることに粘り強く取り組み、学習の見通しをもって自分の考えを書こうとしている。

【教材の特性】

本教材は宮沢賢治の物語「やまなし」と資料として添えられている宮沢賢治の伝記「イーハトーヴの夢」からなっている。

「やまなし」は、「二枚の青い幻灯」として「五月」「十二月」の2つの場面から構成されており、どちらも小さな谷川の底に棲むかにかの目を通して語られる世界である。この2つの場面は対比的に書かれており、「五月」は、明るい太陽の陽射しの中で生命が躍動する昼の谷川が舞台になっている。その中で弱肉強食の争いによって引き起こされる冷酷な死が、いわば現実を表す世界として描かれている。「十二月」は月光が水中に透き通る静かな夜の谷川が舞台となっている。全てのものが眠りにつく冷たい時期であるが、その中でかにかの親子のほのぼのとする暖かいやりとりや、突然落ちてきたやまなしによってもたらせた幸せが、平和で豊かな理想的な世界として描かれている。また、文章中には比喩や擬声語・擬態語などの宮沢賢治の独特の表現が駆使されていることから、「五月」と「十二月」がどのように書かれているのか、表現的にも注目してとらえることができる。

資料「イーハトーヴの夢」は宮沢賢治の生き方や考え方が書かれており、「やまなし」の題名と本文を関連付けて読むことで、作者の思想に迫ることのできる教材である。

【単元計画】(全11時間)

	主な学習活動 代表的な子どもの姿(・)	評価規準
第一次	①②扉絵を見て、想像を膨らませる。「イーハトーヴの夢」と読み、作者である宮沢賢治の生き方や考え方について考える。 ・ 命について自分の考えをしっかりと持っている人なんだな ・ 宮沢賢治は人のために行動できる人だと感じた。 ・ 宮沢賢治は平和で豊かな世界が理想的なんだね。	作者の生き方や考え方をすることができる。 【知】ワークシート、発言

並行読書

	<p>③「やまなし」を読んで初発の感想を書き、友だちと共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな話か分からないところがある。 ・オノマトペなど独特な表現があった。 ・なぜ「やまなし」なんだろう。 <p>④初発の感想から学習計画を立てる。</p>	<p>「やまなし」を読んで、どんな物語なのかを想像し、初発の感想を書こうとしている。</p> <p>【態】ワークシート、発言</p> <p>自分や友達の感想から学習課題を見つけることができる。【知】発言</p>
第二次	<p>⑤情景描写やかきの会話から「五月」の世界観を想像して絵をかき、交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カワセミが「コンパスのように黒くとがっている」部分を表現しました。 ・「五月」は暗いイメージがあるな。 	<p>情景描写やかきの会話から、想像図をかいている。【知】ワークシート</p>
	<p>⑥情景描写やかきの会話から「十二月」の世界観を想像して絵をかき、交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「十二月」は明るいイメージがするね。 ・「やまなし」が落ちてきたからそこを表現してみたよ。 	<p>情景描写やかきの会話から、想像図をかいている。【知】ワークシート</p>
	<p>⑦⑧「五月」と「十二月」の場面を比べて、なぜ「やまなし」が題名なのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「五月」と「十二月」では川に落ちてくるものが変わったね。 ・最初は暗い感じがしたけど、「十二月」になると明るい感じになっている。 ・明るい感じから「やまなし」にしたんだと思う。 ・「十二月」が宮沢賢治の周りに幸せを与える生き方をしたいという考え方に近いから、そこに出てくる「やまなし」を題名にしたんだと思う。 ・友だちの意見も聞いてみたい。 <p>⑨なぜ「やまなし」が題名なのかを共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんの話を聞いて宮沢賢治が命についてどう考えているのかが分かった。 ・〇〇さんは宮沢賢治の生き方がかかわっていると考えているんだね ・他の作品を読んで幸せになってほしいという願いがあったから「やまなし」も幸せになってほしいという願いが込められていると思う。 	<p>並行読書</p> <p>「五月」と「十二月」の違いを理解し、自分の考えを書いている。【知・思】ワークシート</p> <p>作者が作品に込めた思いについて、叙述に基づき自分の考えをまとめている。</p> <p>【思】ワークシート</p> <p>自分の考えを友だちと共有して、自分の考えを深めようとしている。【思】発言・ワークシート</p>

第三次	⑩⑪宮沢賢治の他の作品の紹介カードを作る。 ・もっと宮沢賢治について知りたい！ ・宮沢賢治のほかの作品を読みたい！	作品に込められた願い等を紹介することができる。 【知・思】
-----	---	----------------------------------

4 児童の実態と《目指す児童の姿》に迫るための手立て

【児童の実態】

- 調べたことや学習したことをまとめる活動が得意で積極的に取り組める。
- 少人数のグループで話し合うことが好きで、相手に伝えようと努力することができる。

- 自分の考えを具体的に表現したり、書いたりするのが苦手な児童が多い。
- 「読む」ことになれていなく、叙述から読み取ることが難しい。
- 全体発表だと自信を持ってない児童が多い。



《目指す児童の姿》(高学年ブロック)

進んで考えをもち、関わり合いを通して考えを深める。



【目指す児童の姿に迫るための手立て】

- ①単元扉から想像を広げた中で、初発の感想を書き、それを基に「考える必然性」のある学習課題をもち、その解決を図るようにする。(考える必然性)
- ②自分なりの読みを深めていくために、想像図を描いたり、その想像図に書き込みをしたりして、叙述をもとに自分の考えをまとめられるようにする。宮沢賢治の考えをもとに考えられるように並行読書ができる環境づくりをする。(考えの根拠の明確化)
- ③友達と考えを共有する中で、自分の考えとの相違点や共通点を探し出し言語化できるようにポイントを絞り、安心して発表できるように少人数のグループで共有してから全体で共有する。(考えの共有化・考えの相違の自覚化)
- ④児童同士で考えの共有ができるように、児童の考えを見取り、共有するときに生かせるようにする。(教師の関わり)



研究テーマ
 学び合い、高め合う子どもの育成
 ～子ども主体の授業をめざして～

5 本時について（9／11時間）

【本時目標】

書いた文章を友だちと読み合うことを通して「やまなし」に込められた思いについて考えを深めよう。

【本時展開】

<p>学習のめあてと活動 教師の関わり（○）、子どもの姿（・）</p>	<p>支援・留意点（・） 評価（○）【評価項目】／方法</p>
<p>① 前時までの学習を振り返る。 ○前回は宮沢賢治がなぜ題名を「やまなし」にしたのかを考えましたね。どんなことを考えたか自分のノートで確認しよう。</p> <p>② 本時の学習課題を確認する ○なぜ「やまなし」が題名なのか。前回考えたことを話し合しましょう</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>○なぜ、宮沢賢治は「やまなし」という題名にしたのか考えよう。</p> </div> <p>③ 全体で共有する ○友達の考えと比べて自分と似ているところを探してみよう。 ・○○さんの話を聞いて宮沢賢治が命についてどう考えているのかがわかったので良いと思いました。 ・○○さんの平和を願ってのところが似ていました。 ・○○さんの意見と同じで明るいイメージの「十二月」に出てくる「やまなし」を題名にしているのだと思います。</p> <p>④ 交流を通して、友だちの考えと比較して良さや自分の考えの変容について気づいたことをまとめ、伝え合う。 ○友達の話を聞いてみての自分の考えをまとめてみましょう。 ・○○さんの話を聞いて宮沢賢治が命についてどう考えているのかが分かった。 ・宮沢賢治が自然を大切にしていることが○○さんと一緒だったから自信がもてた。 ・ほかの作品からも宮沢賢治の考え方が分かるなら読んでみたい。</p>	<p>・ワークシートを振り返り、宮沢賢治の生き方や考え方に触れる。</p> <p>・全体共有の前に、少人数グループで共有する時間を設ける。 ・友達と自分の違いを探したり、似ているところを見つけたりできるようにメッセージカードを用意する。 ・自分と友だちの考えを比較するように声をかける。</p> <p>・自分の考えが変わっているところを探し、変化しているところに色を付け分かりやすくする。 ○友だちの書いた文章を読み、自分の考えを深めている。【思】ワークシート・発言</p>

【研究協議のまとめ】

授業者反省

- ・子ども同士が主体的に活動してほしく、教師の出場を少なくしたが、出場が少なすぎて、考えに深まりを持たすことができなまったと感じる。
- 意図的に指名したり、叙述に戻ってみたりなどの手立てが必要であった。
- ・板書計画を立てたが、焦ってしまい板書計画通りにできず、子どもたちの考えや情報を整理することができなかった。
- 沈黙の時間を怖がらずに落ち着いて板書したり、他の子どもにどう思ったか聞いてみたりしてみたら考えが深まったのではと感じた。
- ・子どもが教師のほうを見ながら話していたので相手を意識できるような場の設定をしたほうがよかった。
- 子ども同士が向かい合う座り方や少人数のグループで机をくっつけたら話しやすくなったと思うため、子どもの実態に合わせて場の設定を考えていきたいと思う。

成果

- ・子どもの傾聴の姿勢
- 友だちの意見と自分の考えを比べられていて、自分の意見に付け足す児童や自分の考えは変わらないけど、友だちの意見もよかったと考えていた児童がいた。
- ・児童を見る教師の姿
- 子どもが主体的、意欲的に取り組めるワークシートを作り、子どもの考えにコメントにすることで意欲的に授業に参加する子どもの姿があった。
- ・「やまなし」の話だけではなく作者の生き方・考え方から作品をとらえていた。
- 「イーハトーヴの夢」からも考えられており、作者の宮沢賢治の考えから題名の「やまなし」について考えることができていた。

課題

- ・本時の目指す姿である「関りを通して考えを深める」への教師の関り
- 子どもの考えを深めるためには、考えが変わった・変わらないにこだわらずなぜ、その考えになったのかを考えてもらえるような手立て（発問・板書・反応の仕方）をする必要があった。補助発問を入れることやわかりやすい板書になるように子どもの意見をグループに分けて書くことが大事になってくる。

【次回につなげたいこと】

- ・子どもがどのように考えているかの見取り
- ・子どもの考えを深めるための手立て